第 56 号　2024/6/12

「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

能登半島 災害関連死や孤立への対策が課題

能登半島地震から五カ月

6 月 1 日で、最大震度 7 の揺れを観測した能登半島地震から 5 か月です。石川県内では必要戸数の 7 割近くの仮設住宅が完成するなど新しい住まいで生活する被災者も増える中、災害関連死や孤立を防ぐための対策が課題となっています。

元日に発生した能登半島地震で、石川県ではこれまでに 260 人の死亡が確認され、3 人が行方不明となっています。260 人のうち 30 人は、被災後の避難生活によるストレスや疲労などを原因とする災害関連死で、認定される被災者は今後の審査でさらに増えるとみられます。新しい住まいで生活する被災者も増える中、災害関連死や孤立を防ぐための取り組みが求められていて、石川県は保健師などによる戸別訪問のほか、高齢者向けに食事や入浴を提供したり被災者どうしが交流したりできる拠点を整備するなどして、対策に力を入れていく方針です。

また、被災地では今も 3000 人余りが避難所での生活を余儀なくされ、安心して暮らせる住まいへの入居を待っています。引き続き仮設住宅の建設を急ぐとともに、少しでも早く公費解体や住宅の修理を進めて、被災者の生活再建を後押しできるかも課題となっています。(NHK)

被災地に設置された木造の仮設住宅

仮設住宅の建設が追いつかず、今も農業用ハウスで避難生活をしている人たちもいる。

震災発生後は徐々にメディアで報じられることが少なくなっていきますが、過去の震災では震災以前の生活に戻るまで数年かかったこともあり、能登半島地震においても元の生活に戻るまでまだまだ時間がかかります。能登半島の現状を知る機会が少なくなっているがゆえにボランティアや支援が減っており、そのことが精神的に被災者を追い込んでいるとボランティアに行かれた方が話していたのを聞く機会がありました。能登半島地震に関する情報が少なくなっている中、まだまだ厳しい生活を余儀なくされている人が多くいることを知り、出来ることを考えることが大切です。また、日頃から防災・減災について考えていくことが、自然災害が多い日本において大事なことだと思います。学習塾 KOMABA では 6 月 22 日(土)に能登半島地震に関する総合学習を行いますので、是非ご参加ください。　(生井)